

課題レポート1, 2, 3について

■課題レポートの目的

特別研修は、認定社会福祉士認定の本来の要件・水準と同等以上であること、すなわち認定社会福祉士の要件である30単位を取得した者相当以上であり、具体的には研修20単位相当量の研修受講による知識・技術を習得していることを確認し、スーパービジョン10単位相当量の実践力を得ていることの確認を行います。

具体的には、研修8単位分(12単位分は過去の研修履歴を評価)については、支援の開始から終結(もしくは事業の開始から終了)までのレポート提出を求め、共通専門及び分野専門の知識を確認します。スーパービジョンについては、支援過程において重要と考える特定場面の出来事(逐語など)とその際の判断や推察を記述したレポートの提出を求め、専門的な技術や根拠をもって適切に判断・行動ができていのかどうかを確認します。

そこで、この主旨にもとづき次のレポートを課題とします。ここで取り組む課題は、集合研修Ⅰ・Ⅱを通してご自身でふり返るものとなります。

- ①相談援助実践に関わる基礎的な知識を確認する観点から課題レポート1を課します。
- ②自分自身の相談援助実践のプロセス(展開過程)を個別レベル・組織レベル・地域レベルとの関連性も視野に入れて言語化し可視化する観点からレポート2を課します。
- ③認定社会福祉士として求められる倫理、理論やモデルをふまえた実践が行えていたかどうかを振り返り省察する観点からレポート3を課します。

今回のレポート課題のテーマは次のとおりです。これらは養成課程で学んでいることを前提にしていますので、不明点はご自身で調べて取り組んでください。

◆課題レポート1

ソーシャルワークにおける「エコロジカルモデル」「システム理論」についての説明

◆課題レポート2

自身の実践支援の開始から終結までの展開過程

◆課題レポート3

自身の実践の特定場面における振り返り

■レポート作成上の注意事項

- ・レポート2及び3は、必ず自身が主体となつて行った実践の事例を用いてください。(他人の事例、出版物、講義内容などからの盗用・剽窃が明らかとなった場合は、本研修の受講・評価は無効となります)
- ・課題レポート1, 2, 3の内容が不十分な場合は再レポートとなります。再レポートが不可の場合は研修を修了できません。
- ・課題レポート2及び3は集合研修時に受講者に配布し、演習「事例を用いたピアスーパービジョン」で使用します。**研修当日は、コピーを4部(自身の分を含む)持参してください。**
- ・レポート書式は、本会ホームページからダウンロードし、次ページ以降に示す指定書式(記述方法)に従って作成してください。体裁や字数が指定様式と異なる場合は再提出となります。レポートは手書きではなく必ずワープロ等で作成してください。
- ・提出期日に間に合わない場合は集合研修Ⅰを受講できませんのでご注意ください。
- ・その他、別紙「課題レポート作成上の注意事項」を必ずお読みください。

■書式ダウンロード：日本社会福祉士会 生涯研修センターホームページよりダウンロードください。

掲載場所：本会トップページ → 研修 → 日本社会福祉士会主催 → 2017年度認定社会福祉士特別研修

■提出方法

- ・提出期日：**2017年8月31日(木) 消印有効**
- ・提出方法：郵送(片面印刷でレポート毎にクリップ止めしてください。ホチキス止めはしないでください。)
※提出方法は郵送のみとなり、E-mailでの送信や、本会へ持参いただいても受領できませんので、ご注意ください。
- ・提出先：〒160-0004
東京都新宿区四谷1-13 カタオカビル2F
(公社)日本社会福祉士会 事務局 生涯研修センター 担当：北村(毅)・赤沼
※封筒の表面に「2017年度認定社会福祉士特別研修(第二東京会場)課題レポート在中」と記載してください。

<課題レポート1>

◆レポート課題

ソーシャルワークにおける「エコロジカルモデル」「システム理論」について、それぞれを800字以上1,000字以内で、第三者にわかりやすく説明をしてください。

◆書式（記述方法）

- ・書式は、本会ホームページからダウンロードして使用してください。
- ・A4判用紙縦置き、横書きをお願いします。
- ・フォントサイズは10.5をお願いします。
- ・それぞれの説明にもちいた字数をお書きください。
- ・レポート作成において参考とした文献をお書きください。（参考文献は、著者名、出版社名、発行年等を記述してください。）

受講者番号	氏名
-------	----

<エコロジカルモデル>

(…字)

<システム理論>

(…字)

■参考文献

<課題レポート2>

◆レポート課題

あなた自身が主体となって行った社会福祉実践の一つを、支援の開始から終結まで（もしくは事業の開始から軌道にのるまで〔安定的な運営となるまで〕）の展開過程を約 3,000 字で記述してください。その際、別表の認定社会福祉士に「必要な経験（質的基準）」として示した「個別レベル」「組織レベル」「地域レベル」と照らし合わせて記述してください。

また、エコマップを必ず記述してください（エコマップは字数には含みません）。

◆様式（記述方法）

- ・書式は、本会ホームページからダウンロードして使用してください。
- ・A4 判用紙縦置き、横書きをお願いします。列幅は任意です。
- ・フォントサイズは 10.5 をお願いします。

受講者番号・氏名	
テーマ	（ご自身で課題レポート2のテーマをつけてください）
サブテーマ	（ご自身で課題レポート2のサブテーマをつけてください）
要旨	（実践の内容の要旨を 200～400 字でまとめてください）
ご自身のポジション	（実践内容におけるご自身の職名や職位、役割等をお書きください）
実践の対象	（高齢分野、障害分野、児童・家庭分野、医療分野、地域社会・多文化分野のうちから選択してください）
キーワード	（キーワードを 1 語以上 5 語以内でお書きください）

実践の展開過程	該当する「必要な経験（質的基準）」
<p><記述方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者が読み、演習で活用することを前提にお書きください。 ・ご自身を「私」と表記して、利用者、関係者、組織、地域との関わりを中心に記述してください。 ・「必要な経験（質的基準）」に照らして実践のプロセスがわかるように記述してください。 ・字数は 3,000 字程度です。文末に用いた字数をお書きください。 <p>//////////</p> <p style="text-align: center;">(……字)</p>	<p><記述方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践の展開過程に記述した内容と別紙「必要な経験（質的基準）」とを照合してください。 ・そのうえで、実践の展開過程に合致できている点と本来すべきであったができていなかった点などを具体的にお書きください。 ・字数の制限はありません。 <p>////////////////////////////////////</p>

<課題レポート3>

◆レポート課題

課題レポート2で取り上げた社会福祉実践において、その展開過程において重要だと考えられる特定場面を一つ取り上げ、出来る限り逐語で再現し具体的に詳述してください。

その際、あなた自身がどのような判断や推察をしたか、またその背景となる知識や技術、社会福祉士の視点について記述してください。字数に制限はありません。

◆様式（記述方法）

- ・書式は、本会ホームページからダウンロードして使用してください。
- ・A4判用紙縦置き、横書きをお願いします。列幅は任意です。
- ・フォントサイズは10.5をお願いします。

受講者番号・氏名	
----------	--

特定場面	省察した内容
<p><記述方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの相談援助実践の展開過程において重要だと考えられる場面を特定場面としてとりあげて具体的に記述してください。 ・まず当該場面を取り上げた理由を記述してください。 ・当該場面におけるやりとりや関わりを逐語を用いて具体的に書いてください。 <p>(テーマ)</p> <p>(理由)</p> <p>(特定場面の内容)</p>	<p><記述方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定場面に対する気づきや、新たな相談援助の可能性、社会福祉士としての自己の課題等について、関係する倫理、理論やモデルを活用して省察し、「なぜそう省察したのか」ということを視野に入れて具体的にお書きください。なお、その際に活用した理論やモデルに関する文献もあわせてお書きください。 ・字数の制限はありません。 <p>(省察した内容)</p> <p>.....</p> <p>(参考文献)</p>

考察・まとめ
<p><記述方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート2及び3を振り返り、全体の考察や今後の課題についてお書きください。 ・字数の制限はありません。

認定社会福祉士特別研修
レポート作成上の注意事項

今回のレポート作成では事例を取り扱うこととなります。できる限り個人情報に対する秘密保持への配慮が必要です。そこで、配慮すべき留意点を以下にまとめます。

1. レポート作成上の注意

- ① 事例における利用者等の氏名、住所地、利用施設（機関）、援助者等の氏名、所属先名称等の固有名詞は、原則として無作為のアルファベットで表記し、個人、地域、施設等が特定されないようにする。
- ② 援助者等の所属する施設名（機関名）及び職名、援助者が提供するサービス名称等は、原則として法律上の名称とする。
- ③ 利用者等の生年月日を記載する必要がある場合には、生年までとする。
- ④ 利用者等の年齢は、特に必要な場合を除き、〇〇代前半（半ば・後半）とする。

2. レポートを提出する際の注意

- ① レポートを提出する際には、提出過程において事例の内容が外部に漏れないように注意する。（例えば、Eメール、FAX等による送付は避ける。）
- ② 受講者は、レポートにおいて事例を取り上げることについて、原則として所属施設（機関）の上司等に承諾を得ておくこととする。

3. 特別研修で扱う際の注意

- ① 研修会の参加者は、提供されたレポートにまつわる内容を外部に漏らさないように注意する。主催者は注意喚起する。
- ② 研修会終了時にレポートは研修会主催者の責任においてすべて回収する。
- ③ 研修会主催者は、回収した事例を裁断処理するなどして廃棄する。

【別表】相談援助の実務経験に関する「必要な経験（質的基準）」の項目

個 別 レ ベ ル	<p>1-1 相談援助の開始に係わる業務</p> <p>(ア) 相談受付、インテーク面接・スクリーニングのための情報収集、記録作成</p> <p>(イ) 受理・判定・入所に係る会議等での介入方針の決定</p> <p>(ウ) 契約</p> <p>(エ) 相談者のニーズとワーカビリティに応じた他機関・他部門へのリファー</p> <p>1-2 理論・モデル^{注1}に基づくアセスメント</p> <p>注1 例) 生物・心理・社会的モデル、生態学的モデル、システム理論</p> <p>1-3 アセスメントに基づく目標設定と計画立案</p> <p>(ア) 社会サービス^{注2}の活用支援^{注3}</p> <p>注2 保健、医療、福祉、教育、司法、就労支援などフォーマルな社会資源</p> <p>注3 仲介、調整、調停、提供、ケアマネジメントなど</p> <p>(イ) 理論・モデル・アプローチ^{注4}に基づく心理的サポート、認知および行動変容にむけての支援</p> <p>注4 例) 行動（学習）理論、認知理論、認知行動理論、システム理論、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、クライエント（パーソン）・センタード・アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入モデルなど</p> <p>(ウ) グループを活用した援助（グループワーク、自助グループなど）</p> <p>(エ) 家族支援（心理的サポート、レスパイトサービス、家族心理教育、家族療法など）</p> <p>(オ) ソーシャルサポートネットワーク^{注5}の構築</p> <p>注5 例) インフォーマルな社会資源の開発・調整（近隣住民・友人・大家・ボランティア・職場・学校・その他の関係者や団体への説明・協力依頼・支援）、施設・機関や他の専門職との連携・協働</p> <p>(カ) ケース・アドボカシー（利用者の代弁・権利擁護）</p> <p>(キ) 倫理的ジレンマへの対応</p> <p>1-4 サービス調整会議・ケースカンファレンス等による検討及び調整並びにコーディネーション</p> <p>1-5 計画に基づく介入の実施とモニタリング</p> <p>(ア) 介入の実施とその記録</p> <p>(イ) 継続的なアセスメントおよび変化に応じた修正</p> <p>1-6 相談援助の終結に係わる業務</p> <p>(ア) ケースカンファレンス等での検討</p> <p>(イ) 終結にむけての準備とその後のフォローアップ</p> <p>(ウ) 介入の結果についての評価等</p>
-----------------------	--

組 織 レ ベ ル	<p>2-1 組織の立ち上げや事業の開始あるいは継続に関わる業務</p> <p>(ア) 組織や事業に関わる相談や依頼の受付、情報収集</p> <p>(イ) 会議等での方針決定への関与</p> <p>(ウ) 定款や契約書等の作成あるいは変更への関与</p> <p>2-2 理論・モデル^{注1}に基づく組織のアセスメント^{注2}</p> <p>注1 例) 生態学的モデル、システム理論</p> <p>注2 所属組織、所蔵組織のある地域、および関係する組織・機関について</p> <p>2-3 アセスメントに基づく目標設定と取り組みの企画(計画)^{注3}</p> <p>注3 ここでの企画とは、組織内の限定された部門あるいは事業についてのも のとする</p> <p>(ア) 費用対効果を踏まえた事業計画</p> <p>(イ) 上記の事業に必要な職員の体制づくり(採用・役割分担)</p> <p>(ウ) 法令遵守の取り組み</p> <p>(エ) サービスの質の向上や業務効率向上のための取り組み</p> <p>(オ) 利用者の安全対策(事故、感染症、災害時等)および緊急時の対応の仕組みの構 築</p> <p>(カ) 実習生や新人職員への助言・指導(管理・教育・支持)およびOJT</p> <p>(キ) 職員が自己研鑽に取り組める環境整備</p> <p>(ク) ボランティア等の受け入れとその環境整備</p> <p>(ケ) 組織機関、施設等が有する機能の地域還元</p> <p>2-4 組織内外での会議の企画・運営、職員間および関係部署や関係機関との合意形成 および連携</p> <p>2-5 計画に基づく取り組みの実施とモニタリング</p> <p>(ア) 取り組みの実施(企画の運営)とその記録</p> <p>(イ) 継続的な実施状況についての点検・評価とそれに応じた修正</p> <p>(ウ) リーダーとしての役割遂行</p> <p>2-6 取り組みの終了に関わる業務</p> <p>(ア) 会議等での検討</p> <p>(イ) 終了にむけての準備とその後のフォローアップ</p> <p>(ウ) 取り組みの結果についての評価と報告</p>
-----------------------	--

地 域 レ ベ ル	<p>3-1 地域福祉活動・事業の開始に関わる業務</p> <p>(ア) 相談や依頼の受付、スクリーニングのための情報収集</p> <p>(イ) 会議等での地域福祉活動・事業の方針の決定</p> <p>(ウ) 地域福祉活動・事業についての合意形成、契約</p> <p>3-2 理論・モデル^{注1}に基づく地域のアセスメント^{注2}</p> <p>注1 例) 生物・心理・社会的モデル、生態学的モデル、システム理論</p> <p>注2 例) 参与観察、ヒアリング、フォーカスグループインタビュー、社会調査等</p> <p>3-3 アセスメントに基づく目標の設定と地域福祉活動・事業の計画立案</p> <p>(ア) 社会福祉を目的とする事業の企画^{注3}</p> <p>(イ) 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助^{注4}</p> <p>(ウ) 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整および助成^{注5}</p> <p>(エ) 前に掲げる(ア)(イ)(ウ)の事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業^{注6}</p> <p>注3 例) 権利擁護事業、介護保険事業、介護予防事業等</p> <p>注4 例) 市民活動(小地域福祉活動、ボランティア)の促進・支援</p> <p>注5 例) 関係機関・団体・個人とのネットワーク構築、連携強化</p> <p>注6 例) 当事者の組織化・支援、福祉教育・啓発、制度・事業運営・サービス等の改善のための所属組織内外での取り組み</p> <p>3-4 策定会議、連絡協議会、懇話会等による検討及び調整並びにコーディネーション</p> <p>3-5 計画に基づく地域福祉活動・事業の実施とモニタリング</p> <p>(ア) 地域福祉活動・事業の実施とその記録</p> <p>(イ) 継続的なアセスメントおよび変化に応じた修正</p> <p>3-6 地域福祉活動・事業の終結に関わる業務</p> <p>(ア) 会議等での検討</p> <p>(イ) 終結にむけての準備とその後のフォローアップ</p> <p>(ウ) 地域福祉活動・事業の結果についての評価等</p>
-----------------------	---